

福岡市の環境施策について

福岡市



育てよう。
みんなの
未来!!



I. 総論

II. 各論

取組 1. 福岡式循環型社会システムの構築

取組 2. 温暖化対策を考えた福岡のまちづくり

取組 3. 自然とのふれあいと生物多様性の保全

取組 4. 健康で安全・安心な環境の確保

取組 5. 環境に配慮した行動を促すための共通の基盤
の整備

取組 6. 試験・研究の充実

環境局の使命・目標

■ 基本構想

【都市像2】

自然と共生する
持続可能で生活
の質の高い都市

■ 第9次基本計画

【都市経営の基本戦略】

生活の質の向上と
都市の成長の好循環

■ 環境基本計画

【環境像】

ときを超えて環境と共に生
きるまち

= 持続可能な社会 ※次ページ参照

■ 重点的に取り組む分野

1. 福岡式循環型社会システムの構築
2. 温暖化対策を考えた福岡のまちづくり
3. 自然とのふれあいと生物多様性の保全

環境政策の体系図

環境にやさしい都市をめざす福岡市民の宣言
～ふくおか環境元年宣言～ (平成4年6月14日)

福岡市環境基本条例 (平成8年9月26日)

福岡市環境基本計画(第二次)

(平成18年7月策定) 計画期間:平成18～27年度

■めざすべき環境像

ときを超えて人が環境と共に生きるまち

(= 持続可能な社会)

福岡市新世代環境都市ビジョン

(平成24年度策定) 目標:2050年度

<重点的に取り組む分野>

循環型社会づくり

○新循環のまち・ふくおか基本計画

自然共生社会づくり

○生物多様性ふくおか戦略

低炭素社会づくり

○福岡市地球温暖化対策実行計画

25年度策定

○福岡市役所環境保全実行計画

○福岡市次世代自動車普及促進ビジョン

○福岡市環境・エネルギー戦略(仮称)

25年度策定

環境保全

○福岡市自動車交通公害防止計画

○博多湾環境保全計画

環境教育・学習

○福岡市環境教育・学習計画

環境配慮指針

○福岡市環境配慮指針

○アイランドシティ環境配慮指針

取組 1. 福岡式循環型社会システムの構築

- ①ごみ処理の状況
- ②ごみ減量リサイクル施策の状況
- ③産業廃棄物

取組 1. 福岡式循環型社会システムの構築

①ごみ処理の処理状況

新循環のまち・ふくおか基本計画

循環型社会計画課

■策定：平成23年12月

■基本計画テーマ

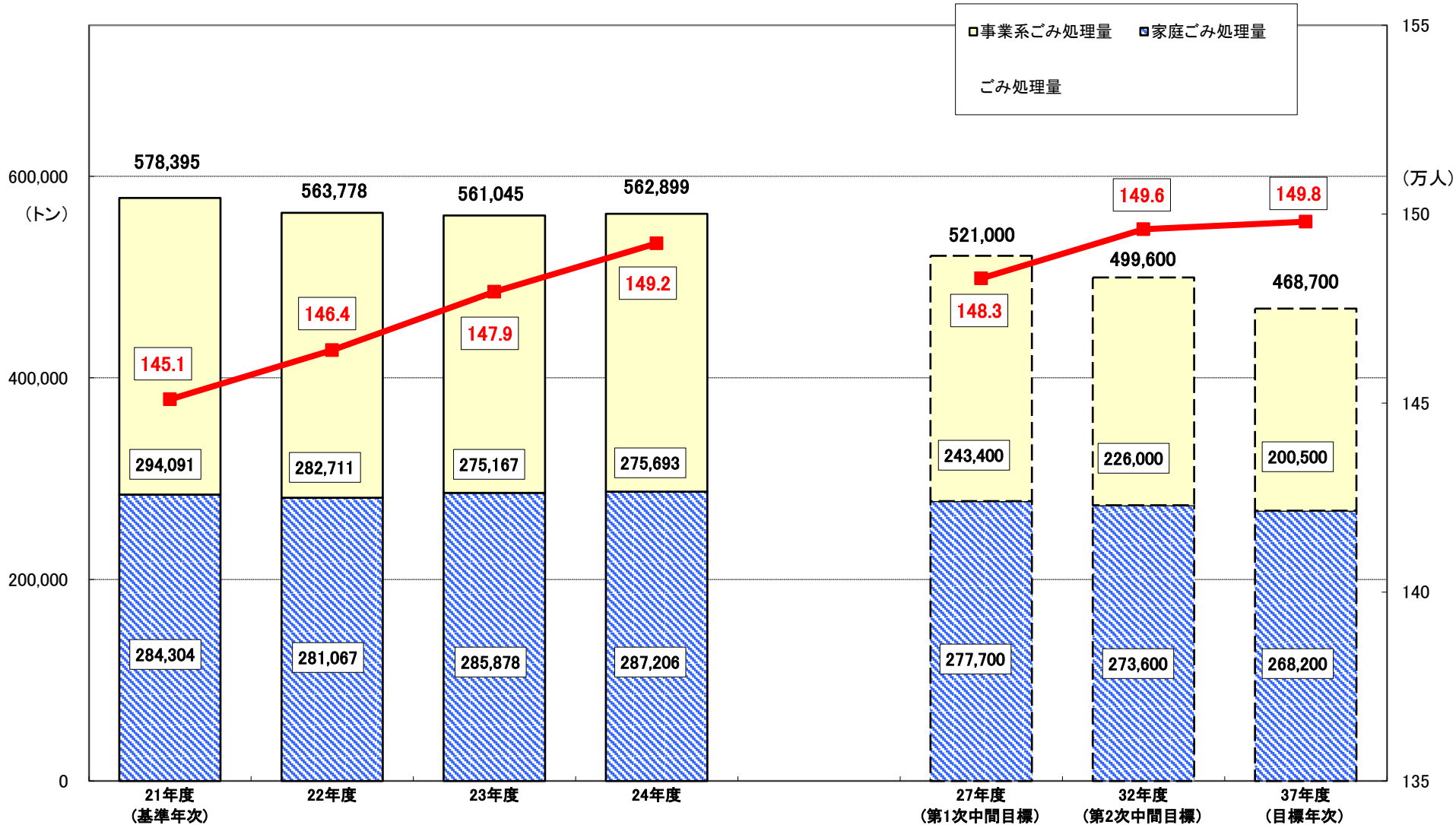
「元気が持続する循環のまち・ふくおか」

■基本方針

- ①循環型社会づくりのさらなる推進
- ②処理の優先順位に基づく適正処理の推進
- ③持続可能な社会の実現に向けた施策の推進

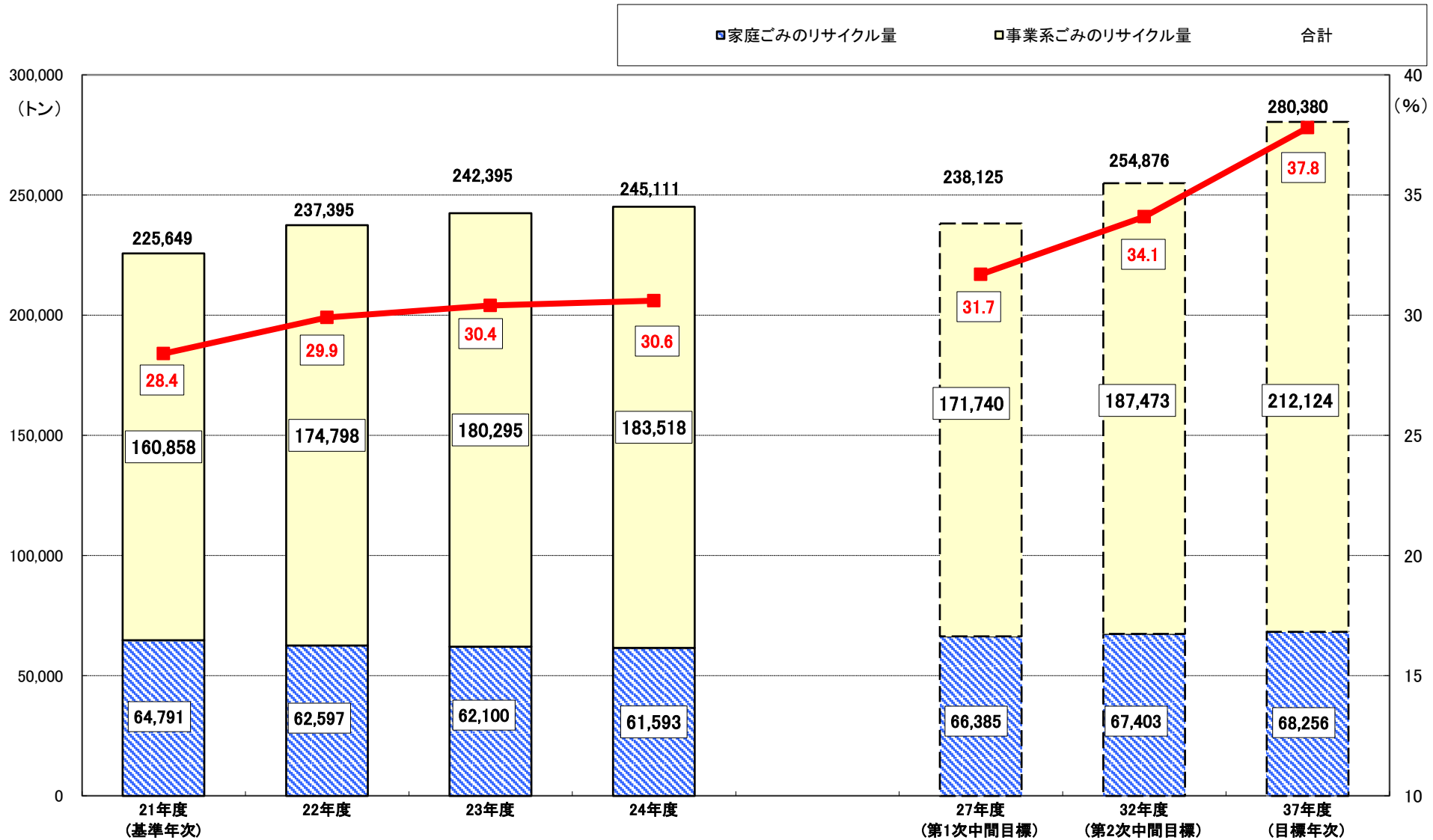
ごみ処理量の推移

循環型社会計画課



ごみのリサイクル率の推移

循環型社会計画課

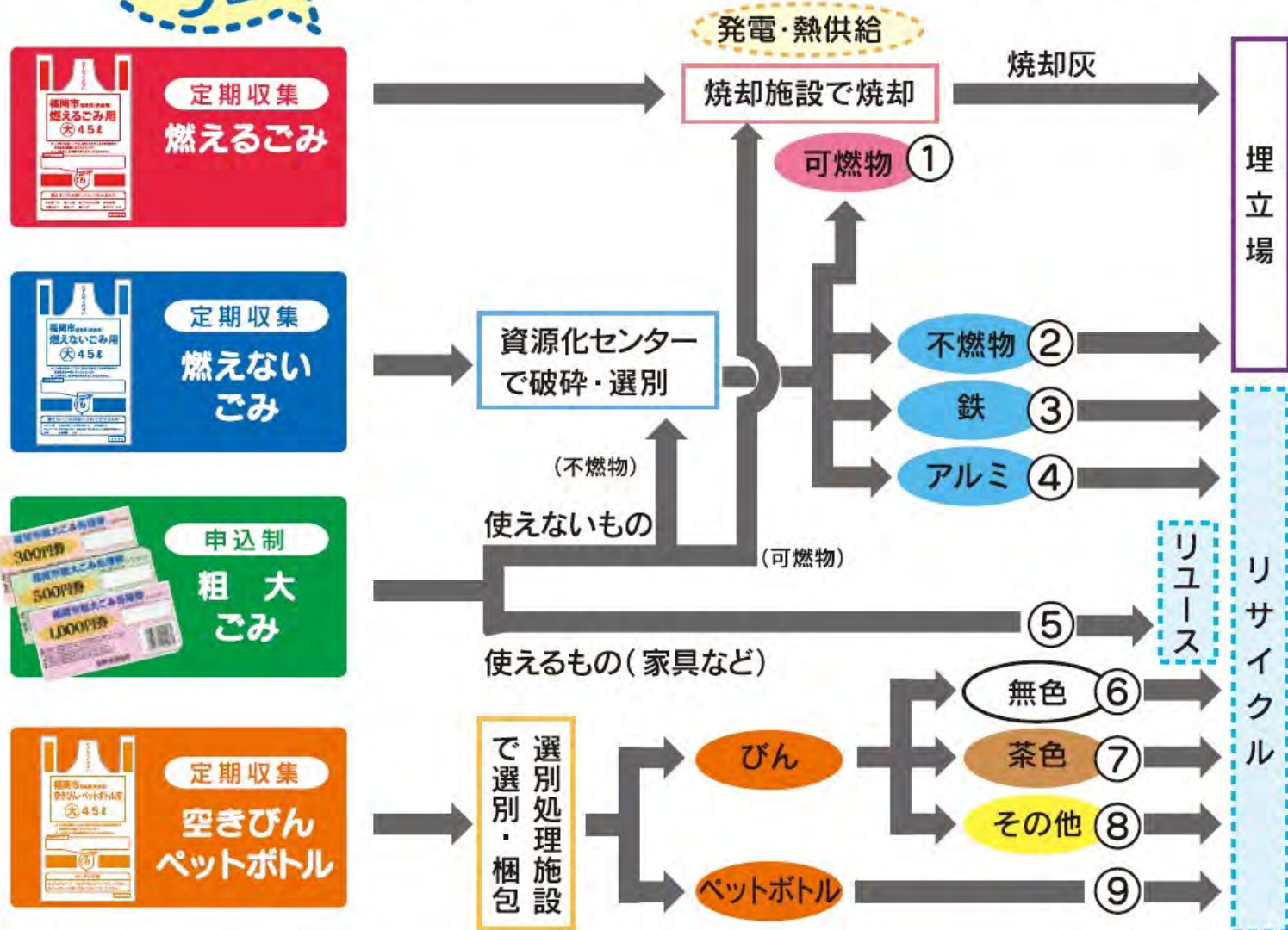


家庭ごみの処理の流れ

循環型社会計画課

最終的には
9区分

福岡市では4分別で収集した家庭ごみを、最終的には
下図①～⑨の9区分にして、リサイクルや処理をしています。



清掃工場（可燃ごみを焼却処理し、発電）

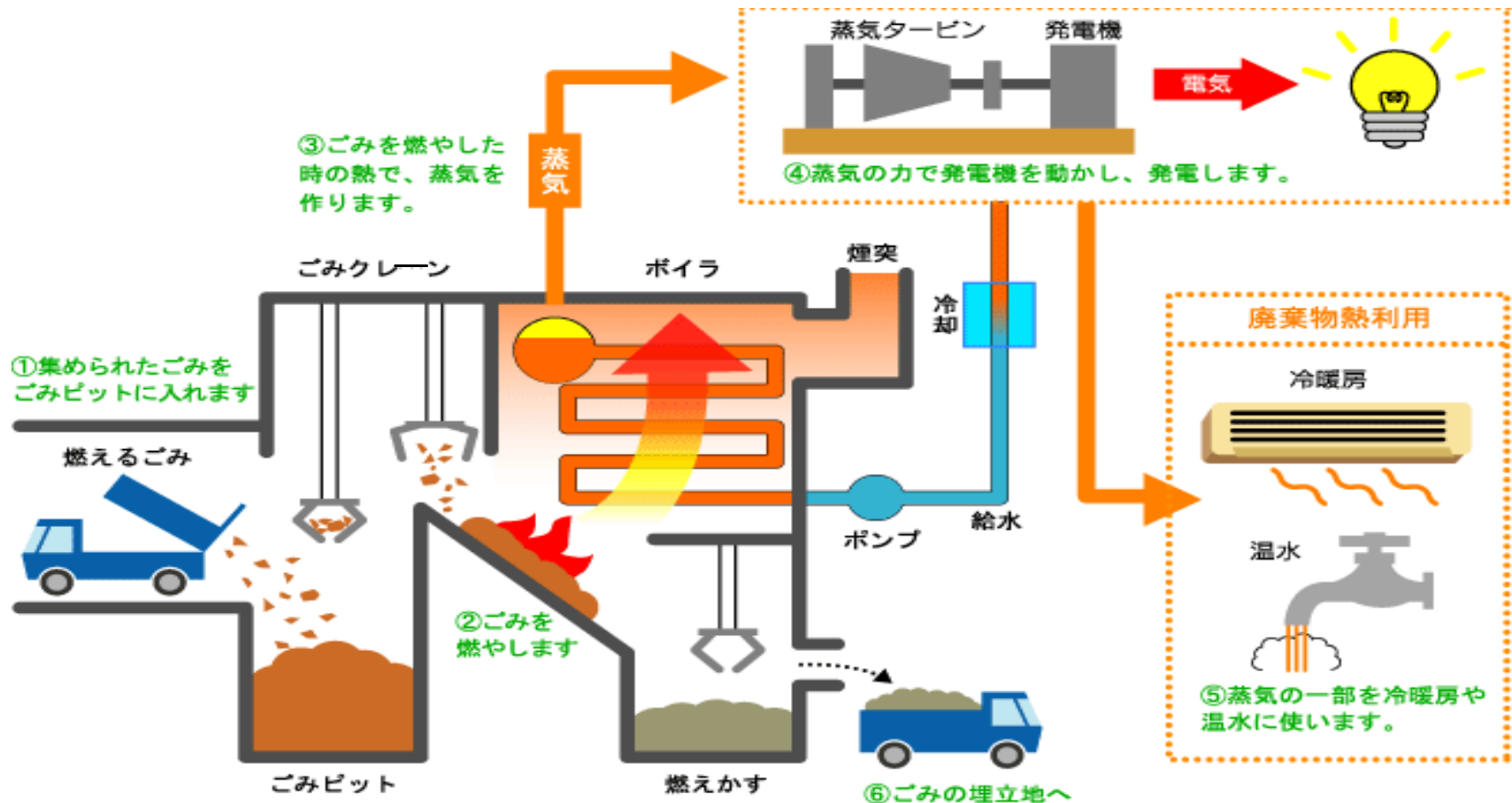
ごみを焼却するときの熱を利用した、発電を行っています！

工場整備課

24年度発電量 約2億7,700万kWh

※約5万3000世帯分の年間消費電力に相当！

※CO₂削減効果 約14万6千トン



世界規模で注目される「福岡方式」埋立場

施設課

西部(中田)埋立場
総面積:38万 m^2
埋立容量:238万t

敷地境界

写真提供:福岡市消防局



取組 1. 福岡式循環型社会システムの構築

②ごみ減量・リサイクル施策の状況

レアメタルの資源化促進



資源循環推進課



回収ボックス
(市内66か所)

使用済小型電子機器には、金、銀、銅やレアメタルなどの貴重な資源が含まれており、「都市鉱山」として注目されている。

○平成22年6月から市内のスーパー等に回収ボックスを設置し、取り出した資源を製品に活用する実証実験を実施していたが、平成25年4月の「小型家電リサイクル法」施行に伴い、8月より回収拠点を拡大し、レアメタルの再資源化に本格的に取り組んでいる。

○回収品目 法対象品目のうち、ボックスの投入口(25cm×8.5cm)から投函可能な小型電子機器と付属品
(例)携帯電話・ゲーム機・カメラなど

○回収実績

回収年度	回収個数	回収重量
平成22年度(6月～)	約 12,000個	約 900kg
平成23年度	約 22,000個	約 1,700kg
平成24年度	約 24,000個	約 1,800kg



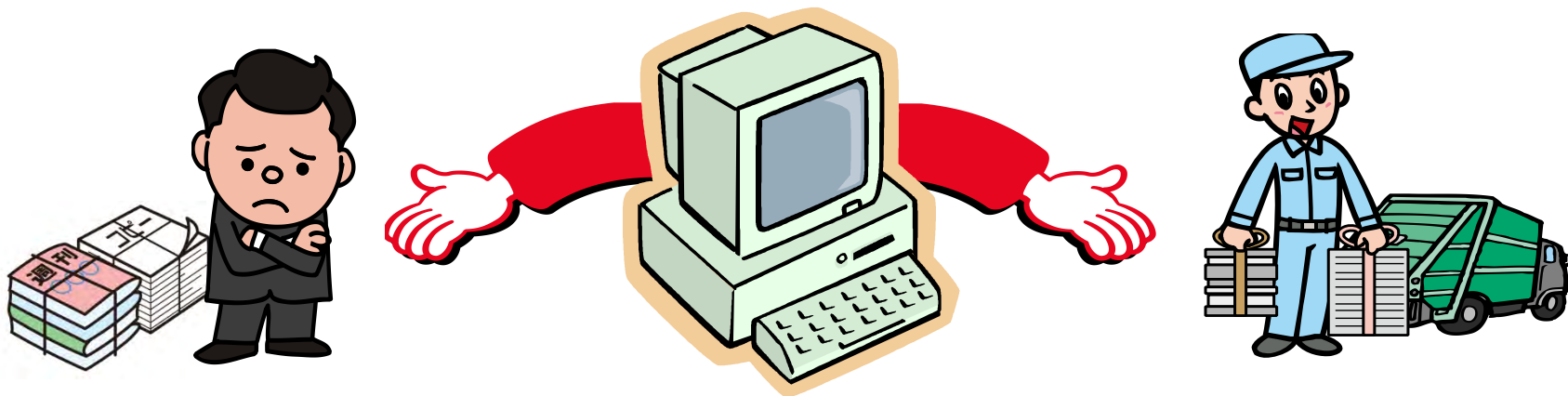
回収品目の例



事業系ごみ資源化情報発信サイト

<http://jigyogomi-recycle.city.fukuoka.lg.jp>

コンテンツ① 古紙回収マッチング



【事業者】

両者のマッチング

【古紙回収業者】

コンテンツ② 優良な事業者を動画で紹介

コンテンツ③ ごみ減量・リサイクルのアイデア投稿・紹介

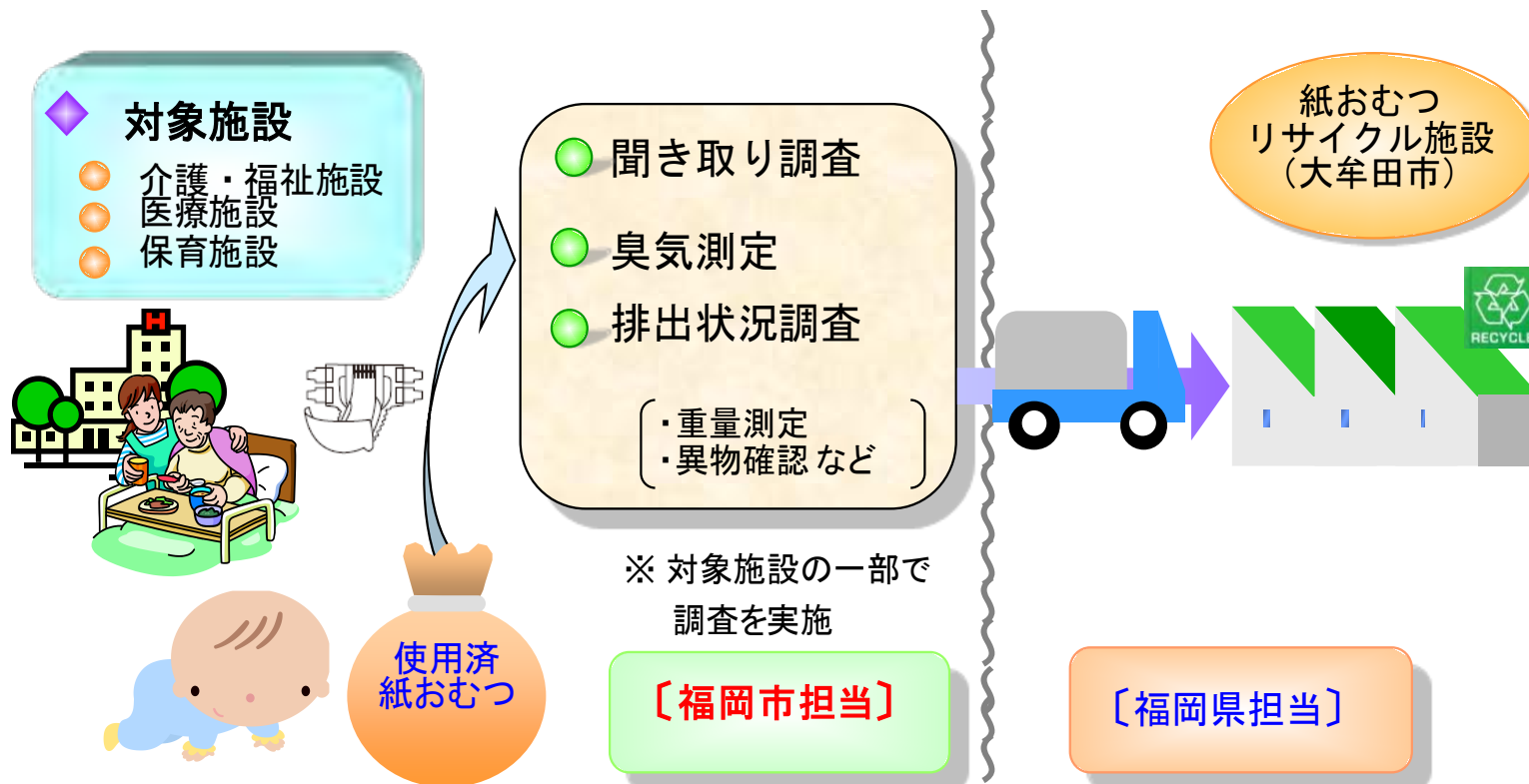
コンテンツ④ メールマガジンの配信

事業系ごみ資源化推進ファンド事業②

資源循環推進課



- 高齢化社会の進展に伴い、排出量の増加が見込まれる紙おむつのリサイクルに向けて、福岡県と共同で回収実証実験を実施。

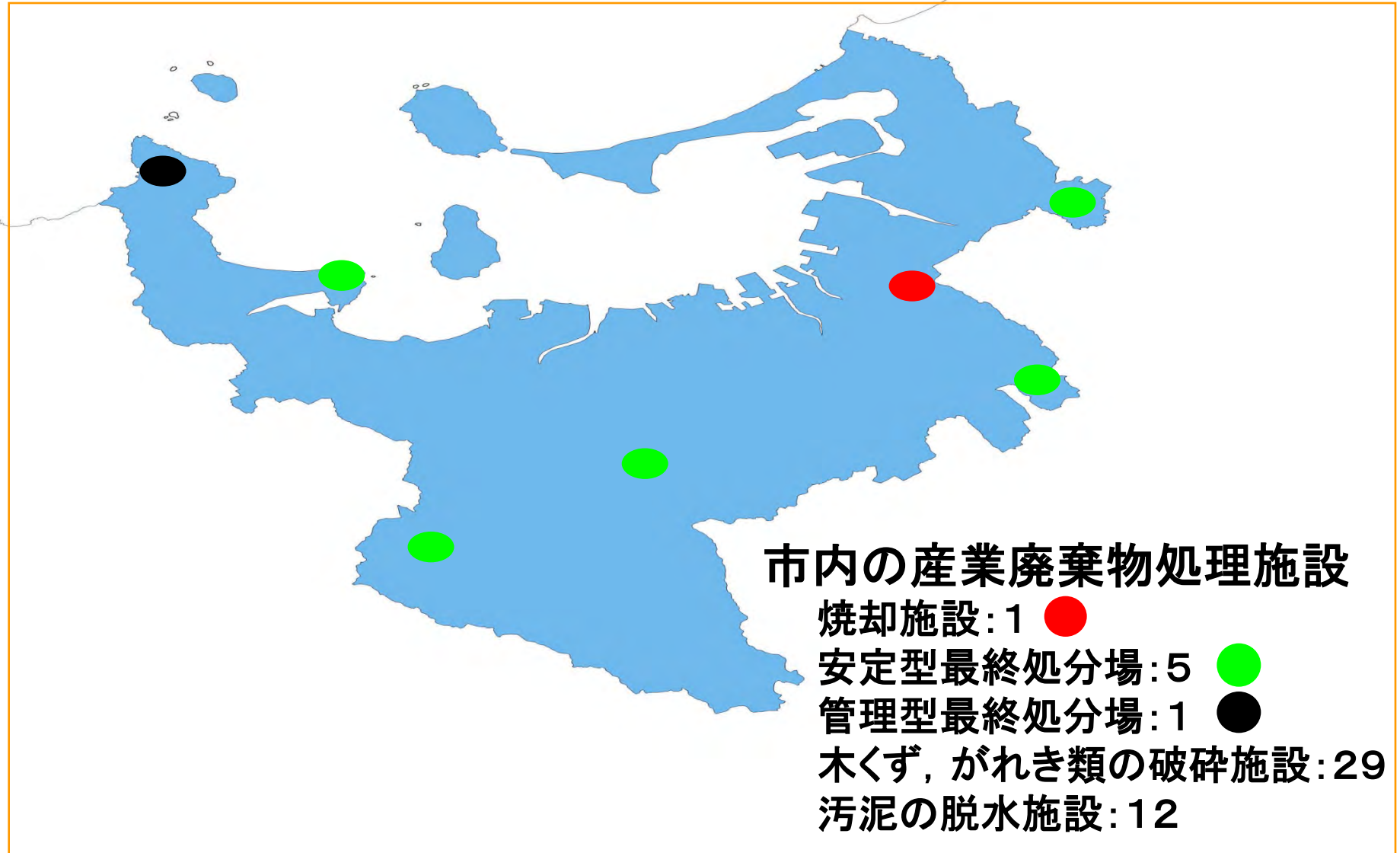


取組 1. 福岡式循環型社会システムの構築

③産業廃棄物

市内の主な産業廃棄物処理施設

産業廃棄物指導課



産業廃棄物の処理状況

産業廃棄物指導課



【平成23年度実績】

市内発生量 131万トン

産業廃棄物の種類	数量(万トン)
がれき類	79
汚泥	17
混合廃棄物	11
その他	23
合計	131

市内処理量 95万トン

中間処理量
89万トン

【主な中間処理施設】

- ・がれき類の破碎・分級
- ・汚泥の脱水, 造粒固化
- ・混合廃棄物の選別

最終処分
(埋立)

6万トン



中間処理後の廃棄物の約9割は再生利用
(道路工事の路盤材など)

取組 2. 温暖化対策を考えた福岡の まちづくり

- ①平成23年度温室効果ガス排出量等
- ②省エネ施策の実施状況
- ③創エネ施策の実施状況
- ④自律分散型エネルギー社会の
構築にむけて

取組 2. 温暖化対策を考えた福岡のまちづくり

①平成23年度 温室効果ガス排出量等

福岡市における温室効果ガス排出量の推移 (平成16年度～平成23年度)

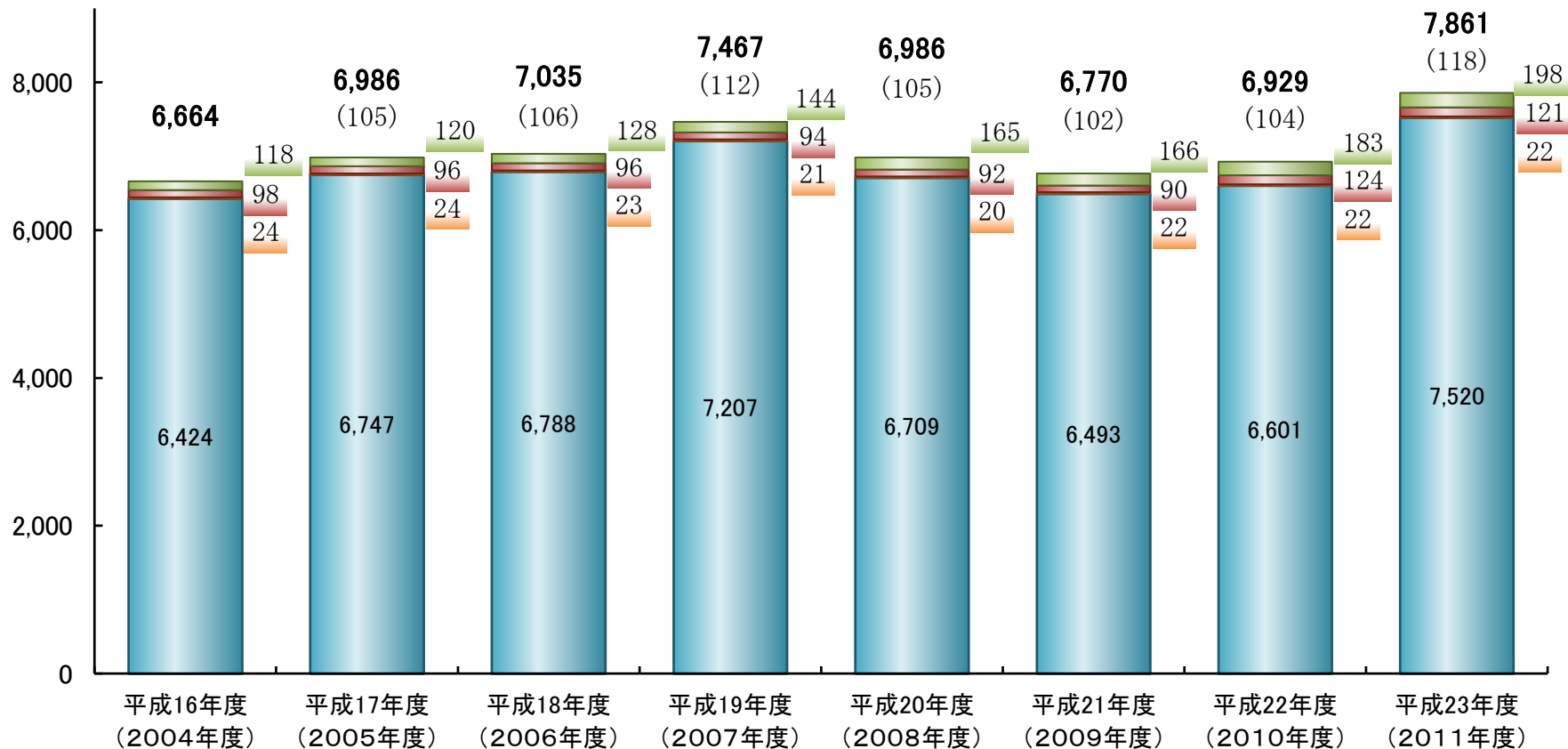
温暖化対策課

()内の数値は2004年度を100としたときの指数

※四捨五入の関係のため、排出量の内訳と総量が必ずしも一致しない場合がある

(千t-CO₂/年)

■ 二酸化炭素 ■ メタン ■ 一酸化二窒素 ■ 代替フロン類



平成23年度の温室効果ガス排出量は、基準年度(平成16年度)と比べ、
18.0%増加している。(前年度比13.4%増加)

福岡市地球温暖化対策地域推進計画 (第三次) の数値目標

温暖化対策課

* 基準年度 平成16年度(2004年度)
* 目標年度 平成22年度(2010年度)

基準年度
(平成16年度) 比

平成23年度
(2011年度)

前年度比

家庭部門

世帯あたりの二酸化炭素排出量を**8%削減**する → 33.9%増 +22.7ポイント

業務部門

床面積あたりの二酸化炭素排出量を**14%削減**する → 29.1%増 +17.3ポイント

自動車部門

1台あたりの二酸化炭素排出量を**8%削減**する → **17.1%減** +0.4ポイント

取組 2. 温暖化対策を考えた福岡のまちづくり

②省エネ推進施策の実施状況

重点部門における対策

○市民に向けた取り組み

- ・地球温暖化防止展示会
- ・ECOチャレンジ応援事業
- ・第7回全国緑のカーテンフォーラムin福岡
- ・電気自動車(EV・PHV)購入等補助
- ・住宅用太陽光発電設置補助
- ・家庭用燃料電池設置補助
- ・太陽光発電アドバイザー等の派遣



○事業者に向けた取り組み

- ・事業所省エネ技術導入サポート事業

ビルオーナーが省エネ業者の指導に基づき省エネを図り、削減された光熱水費より一定割合を省エネ専門業者へ支払う事業

- ・ 省エネ専門業者登録数 12社(平成24年度)
- ・ 本事業の導入支援施設数 平成23～24年度累計
38施設(病院・学校・店舗等)

- ・市有施設屋根貸し太陽光発電事業

太陽光発電事業を行う事業者に、市有施設の屋根の使用を許可する事業
→事業者が太陽光発電設備設置にかかるコストを負担

市役所の取り組み

○エネルギー使用量の削減

【平成25年度夏期の取り組み】

政府及び九州電力から数値目標を伴わない節電要請

→特別対策本部を中心に節電対策の実施

- ・冷房温度28℃設定の徹底
- ・電灯の部分消灯
- ・クールビズの早期実施
- ・民間施設等とも連携し「クールシェアふくおか」を実施
(商業施設, 飲食店, アジア美術館, 博物館等)



○庁用自動車等のCO2排出量の削減

- ・市庁用車への電気自動車導入 累計10台
- ・一般庁用車における低公害車の
導入率80%以上



○市有施設照明改修事業（平成24年度～）

費用対効果が高い、白熱・ハロゲン電球及び水銀灯のLEDへの取り替え

- ①対象施設：市有施設約 1 0 0 施設
- ②取り替え個数：約 8, 8 0 0 個（平成 2 4 年度実績）
- ③取り替え方法：電球を購入し、各施設で取り替え
- ④事業の効果：電力削減効果・・・7 2 万 k W h ／年
（本庁舎の電力使用量に換算すると、年間使用量の 8. 3 %に相当）

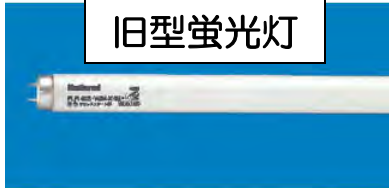
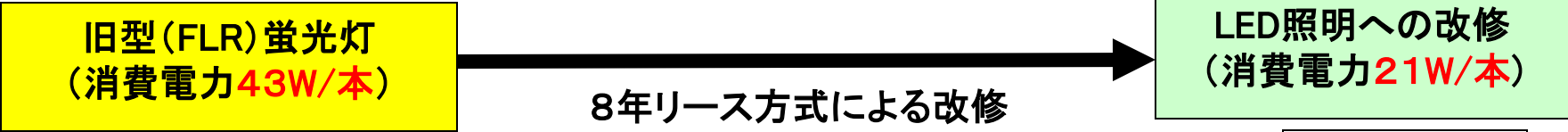
経費削減効果・・・1 0 年間で約 1 億 6 千万円（電気代＋電球代）

<年次計画>

	平成24年度 （実績）	平成25年度 （計画）	平成26年度 （計画）	平成27年度 （計画）	平成28年度 （計画）	合 計
白熱電球	8, 300個	-	-	-	-	8, 300個
ハロゲン電球	500個	-	-	-	2, 800個	3, 300個
水銀灯		340個	340個	340個	140個	1, 160個
合 計	8, 800個	340個	340個	340個	2, 940個	12, 760個

○旧型（FLR）蛍光灯のリース方式によるLED化

＜平成24年度における試験導入＞



電気代の削減額で照明の更新が可能！



導入施設名	導入本数 （本）	照明点灯時間 （時間/年）	ランニングコスト		
			現状維持 （機器改修費 用含む） （万円）①	リース方式で のLED導入 （万円）②	コスト削減額 （万円）①－ ②
消防局施設（23施設）	1,799	3,420	5,233	3,240	1,993
保健環境研究所	150	2,500	302	204	98
西部工場	50	8,700	161	107	54
合 計	1,799	3,420	5,233	3,240	1,993

8年間の合計で
約2,100万円の
コスト削減が
見込める

➡ 平成25年度から3年間で約6万本のLED化を目指す。

取組 2. 温暖化対策を考えた福岡のまちづくり

③創エネ推進施策の実施状況

創エネ推進施策の実施状況

再生可能エネルギー等
の導入

エネルギー政策課

○市施設への率先導入(平成24年度末)

()内は前年度比

種 別	施設数	発電出力	備 考
太陽光発電	147 (+18)	1,334kW (+140kW)	公民館, 小中学校等
メガソーラー	1 (+1)	1,000kW (+1,000kW)	大原メガソーラー発電所
風力発電	3	17kW	シーサイドももち, みなと100年公園, もーもーらんど油山牧場
バイオマス発電	2	525kW	中部, 和白水処理センター
小水力発電	1	35kW	瑞梅寺浄水場
廃棄物発電	4	69,200kW	東部, 西部, 南部, 臨海工場
計	158 (+19)	72,111kW (+1,140kW)	

創エネ推進施策の実施状況

再生可能エネルギー等
の導入

エネルギー政策課

〇メガソーラー発電事業の推進

【スケジュール】

第1弾

平成24年度 大原(おおばる)メガソーラー発電所稼働
(西区今津, 西部中田埋立場)

第2弾

平成25年度 東部武節ヶ浦埋立場(東区蒲田)に1MWの
大規模太陽光発電を設置予定

【大原メガソーラー発電所概要】

発電出力	1,000kW (=1MW)		
敷地面積 (パネル設置数)	11,447㎡(3,840枚)	※平地4,617㎡(1,152枚)	※法面6,830㎡(2,688枚)
年間発電量	116万kWh ※市内一般家庭220世帯分		
売電収入見込【20年間】	8億3,160万円		
事業費【20年間】	5億2,188万円	※リース期間	: 5億508万円
		※終了後維持管理	: 1千680万円



＜仕組み＞リース方式による設置。再生可能エネルギーの固定価格買取制度による売電



取組 2. 温暖化対策を考えた福岡のまちづくり

④自律分散型エネルギー社会 の構築にむけて

自律分散型エネルギー社会の構築にむけて

エネルギー政策課

自律分散型エネルギー社会のあり方検討

○福岡市環境・エネルギー戦略(仮称)の策定

【平成24年度実績】

・年度末に、数値目標や推進方策等についての提言内容をまとめた「有識者会議提言書」の市長報告を実施

【平成25年度】

・福岡市のエネルギー政策の方向性や数値目標、具体的な取組みなどを示す戦略を策定

戦略の構成案

- 戦略策定の趣旨
- 福岡市のエネルギー利用状況や利用可能な再生可能エネルギーの賦存量等
- 2030年(平成42年)の目指す姿
- 施策の方向性と目標値
- 戦略の推進方策

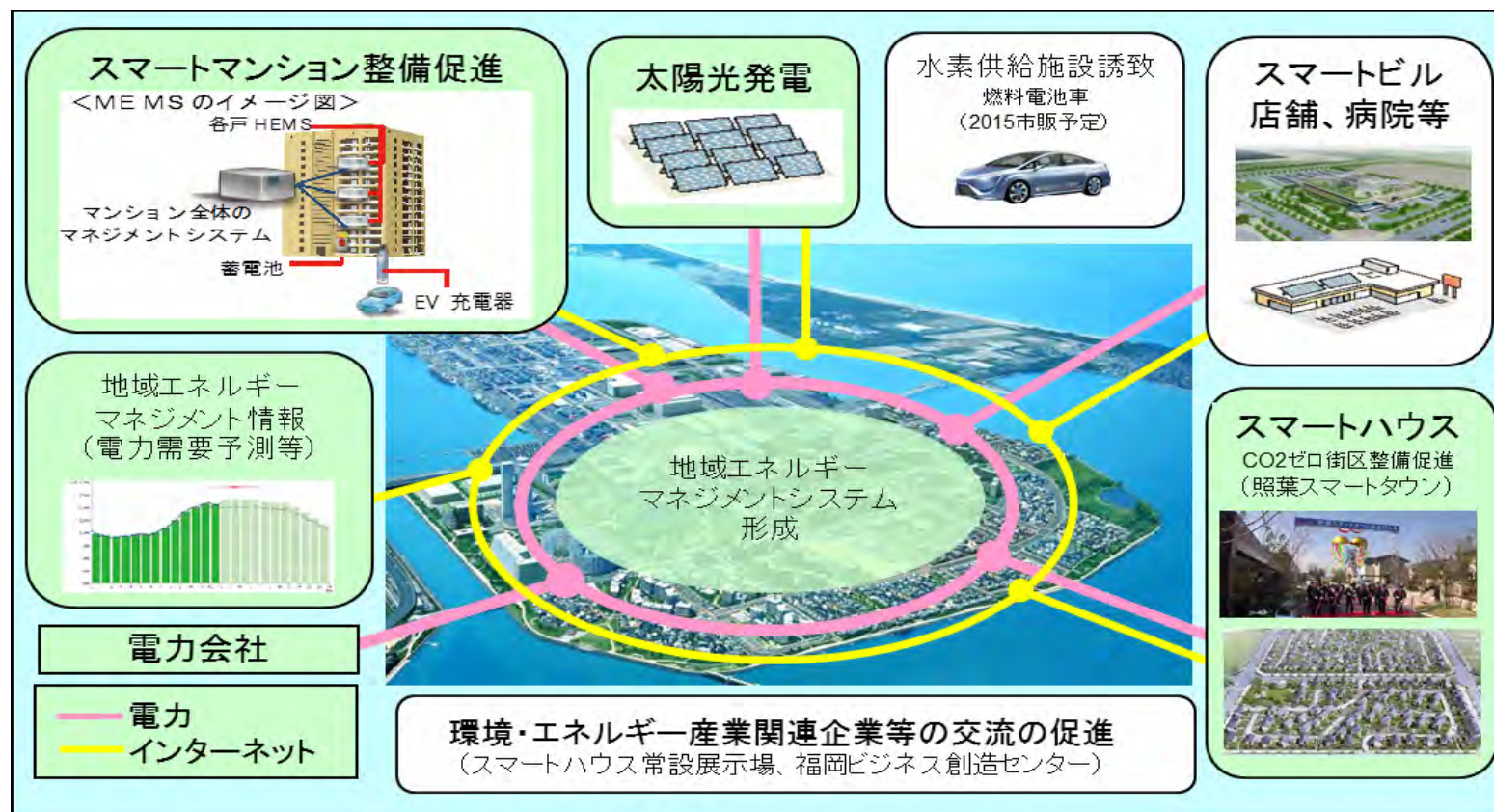
自律分散型エネルギー社会の構築にむけて

エネルギー政策課

スマートコミュニティの形成

○アイランドシティ スマートコミュニティ創造事業

- エネルギーの自給・自立性や低炭素化に著しく優れた環境を創るとともに、ICTを活用し、**住民の暮らしの質の向上**にも寄与するまちづくりを実施。
- その環境システムの開発を生かして、本市の**環境・エネルギー関連産業の振興**を図る。



取組3. 自然とのふれあいと生物多様性の保全

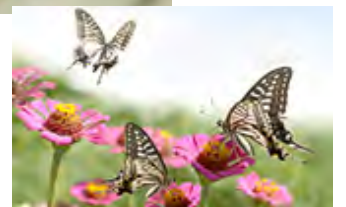
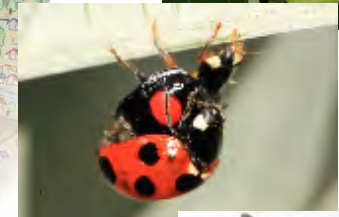
～主な施策の実施状況

生物多様性ふくおか戦略

環境調整課

【策 定】平成24年5月
【100年後の将来像】命をつなぐ未来都市「ふくおか」
【当初10年の基本的な方向】

- 生物多様性に関する認識の社会への浸透
- 多様な主体との連携
- 生物多様性の保全や、その恵みの持続的な利用



生物多様性の保全①

環境調整課

里海保全再生事業（今津干潟）



クロツラヘラサギ



カブトガニ



ハクセンシオマネキ



カキ拾い



カキの肥料化

博多湾環境保全対策の推進

将来像：生物が生まれ育つ博多湾

○博多湾環境保全計画に係るモニタリング (平成24年度)

・貧酸素発生状況調査

調査期間：5月～10月(月2回)

調査地点：7地点(左図)

調査結果：

・6地点(C-1以外)で貧酸素発生

・生物指標調査(藻場, カブトガニ)

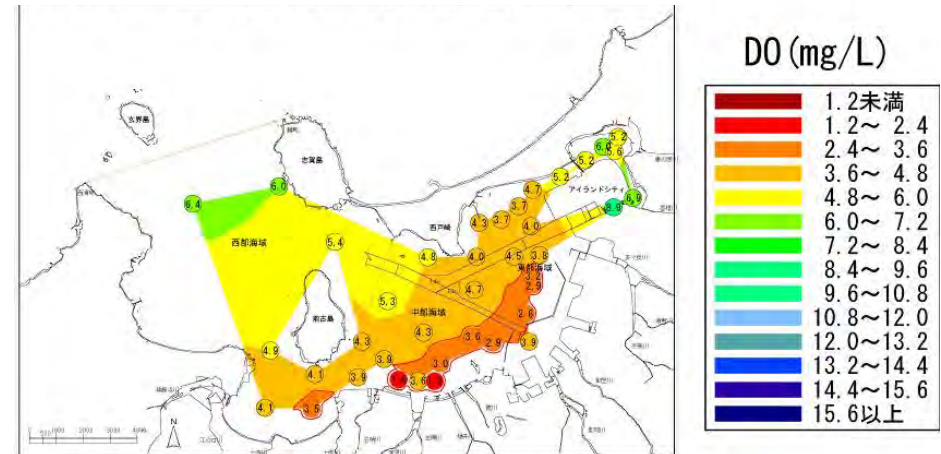
○博多湾の物質循環に関する調査

H23 : 外海からの負荷量調査

H24, 25: 河川流量・負荷量調査

[H24: 御笠川、那珂川、樋井川
H25: 多々良川、宇美川、室見川(予定)]

＜平成14～24年の6～10月(底層平均値)＞



ビオトープ普及啓発

<平成24年度実施内容>

○ビオトープ教室

- ・市民参加の生物調査
- ・場 所:クリーンパーク臨海ビオトープ
- ・回 数:1回(25名参加)

○ビオトープ生物出現状況調査

- ・クリーンパーク臨海ビオトープ(平成13年度設置)
の生物出現状況調査
- ・回 数:3回

○学校ビオトープ現況調査

- ・平成13～14年度に環境局が設置した
学校ビオトープ(7校)の現況調査

花畑小学校、飯倉中央小学校、百道小学校、
堤小学校、野多目小学校、壱岐南小学校、
美野島小学校(平成23年度閉校)



自然環境調査

(目的) 自然環境の現状を把握し、保全・創造施策への基礎資料とするため、市域の動植物の分布を植生、昆虫、鳥類、水生生物、その他の動物の5分野に分けて、毎年1分野ずつ、5年周期で調査している。

また、外来生物、希少種の調査を適宜実施している。

○H24年度調査対象： 哺乳類・は虫類・両生類

・13種の希少種が確認された。

①哺乳類： カヤネズミ、キツネ、イタチ

②は虫類： イシガメ、タカチホヘビ、ジムグリ、シロマダラ

③両生類： イモリ、ニホンヒキガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、カスミサンショウウオ



イシガメ
(環境省準絶滅危惧)
(福岡県準絶滅危惧)



トノサマガエル
(環境省準絶滅危惧)
(福岡県絶滅危惧 I b)

・1種の特定外来生物(ウシガエル)が確認された。

○H25年度調査予定： 植生、特定外来生物

野鳥公園整備の推進

生物多様性の保全と持続可能な利用の重要な取組みの一つとして、アイランドシティにおける野鳥公園の全体イメージや必要な機能などを示す基本計画を策定する。



☞ 多様な主体による合意形成の導入

24年度に引き続き、「野鳥公園ラウンジカフェ」を開催し、気軽に意見交換ができる対話手法による合意形成を図る。



☞ 斬新な公園管理運営の導入

NPOなどの市民活動やCSRなどの民間活力を取り入れ、共働する手法などを計画段階から検討し、将来的な管理費抑制を図る。



園内管理



公園ボランティア

取組4. 健康で安全・安心な環境の確保

～平成24年度の環境監視の
結果について

大気質の状況（平成24年度）

環境保全課

●大気環境基準達成状況

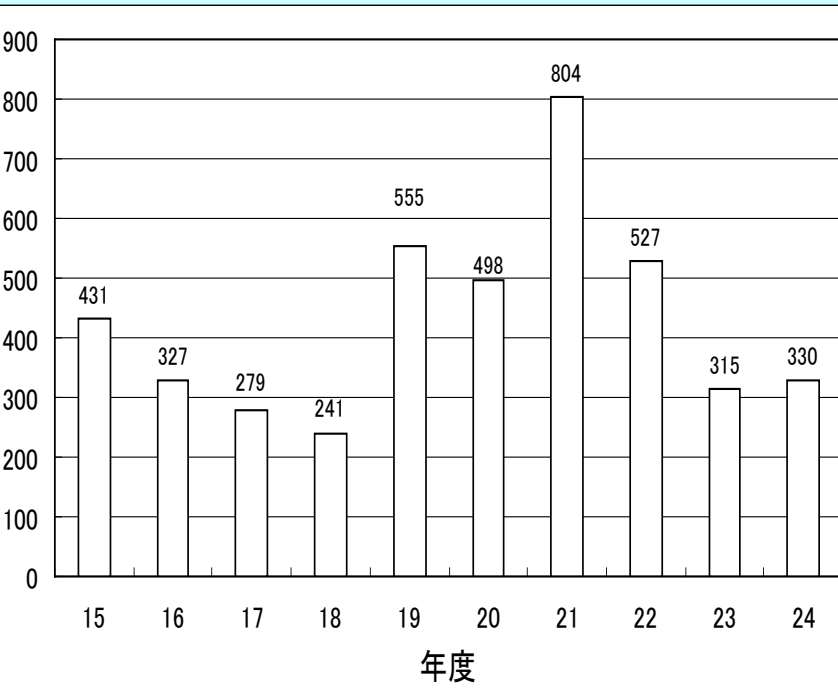
測定局	二酸化硫黄	二酸化窒素	一酸化炭素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質
一般環境大気測定局（8局）	香椎	○		×	○	×
	東		○	×	○	
	吉塚	○	○	×	○	×
	市役所	○	○	×	○	×
	南		○	×	○	
	長尾		○	×	○	-
	祖原	○	○	×	○	
	元岡		○	×	○	×
自動車排出ガス測定局（8局）	千鳥橋		○		○	-
	比恵		○		○	
	天神	○	○	○	○	
	大橋		○		○	×
	別府橋		○		○	
	西新		○		○	
	新西		○	×	○	×
	今宿		○		○	



※元岡局の微小粒子状物質は環境省モニタリング試行事業による設置

光化学オキシダントの経年変化

環境保全課

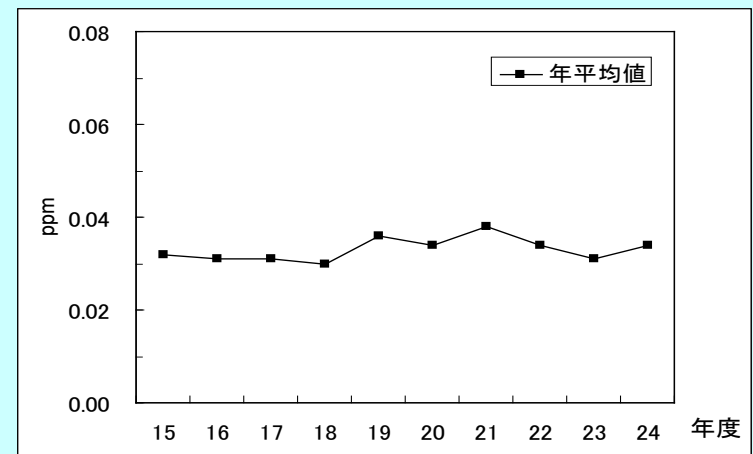


1年間で昼間の1時間値が0.06ppmを超えた
時間数(測定局1局あたり)

環境基準：昼間(5時～20時)の
1時間値が0.06ppm以下

年	福岡県		佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	鹿児島県
	福岡市	福岡市以外					
H24	1 (5/7)	—	—	—	—	—	—
H23	—	—	—	1 (5/16)	—	—	—
H22	—	—	1 (5/8)	1 (5/8)	—	—	—
H21	2 (5/8, 9)	2 (5/8, 9)	2 (5/8, 9)	2 (5/8, 9)	2 (5/8, 9)	3 (5/20, 6/25, 26)	1 (5/8)
H20	—	2 (5/22, 27)	1 (5/27)	—	—	—	—

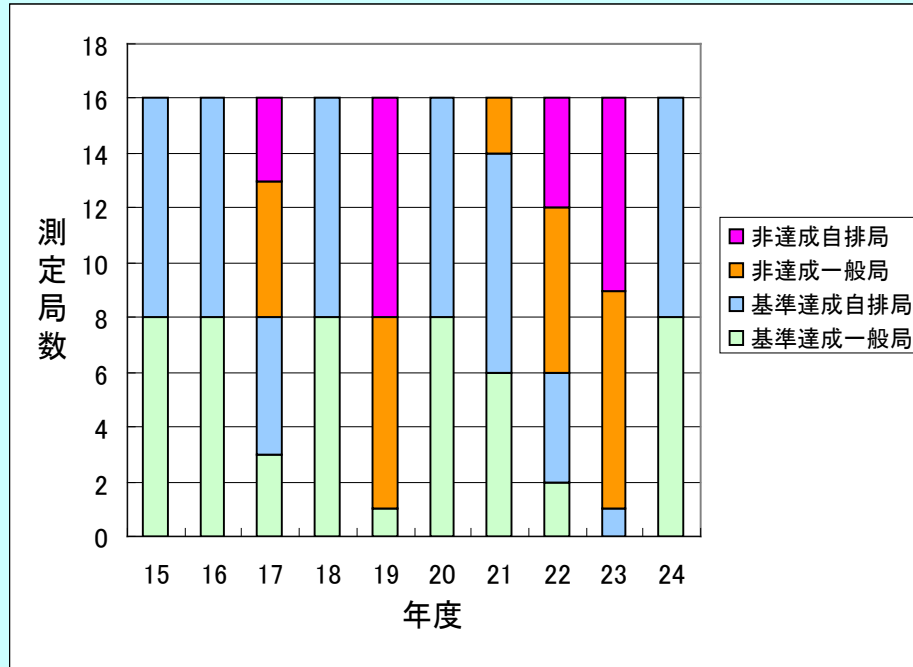
平成20年～平成24年の注意報発令状況



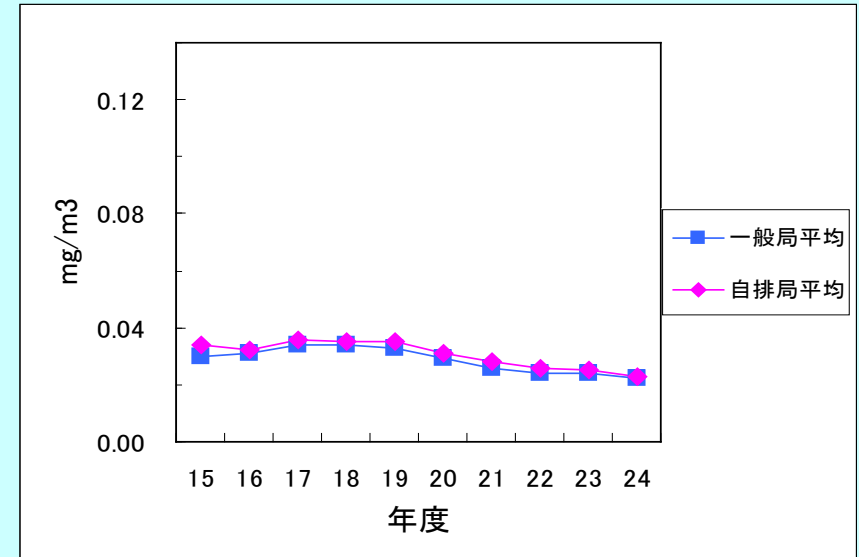
昼間の1時間値の年平均値の推移

浮遊粒子状物質の経年変化

環境保全課



環境基準達成状況の推移

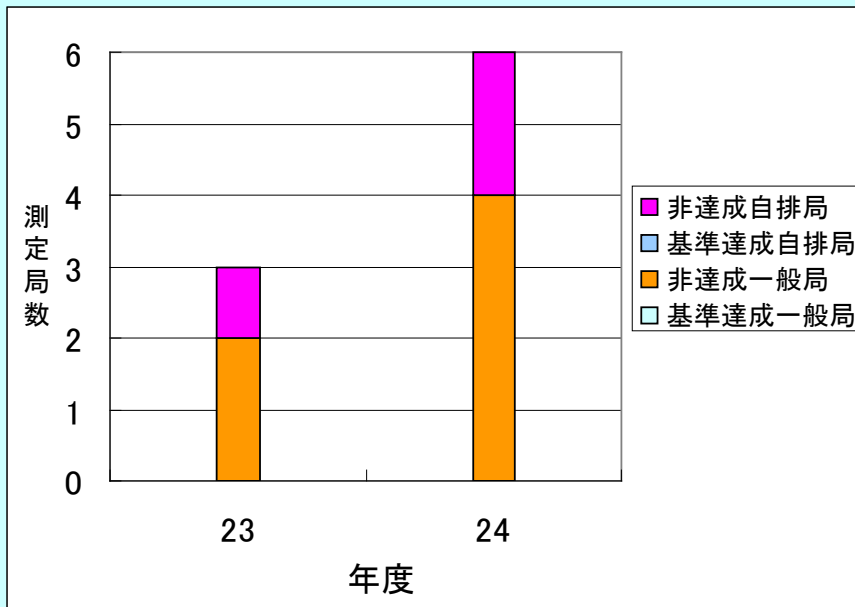


年平均値の推移

環境基準：年間日平均値の2%除外値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下かつ
日平均値 $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を2日以上連続して超えないこと

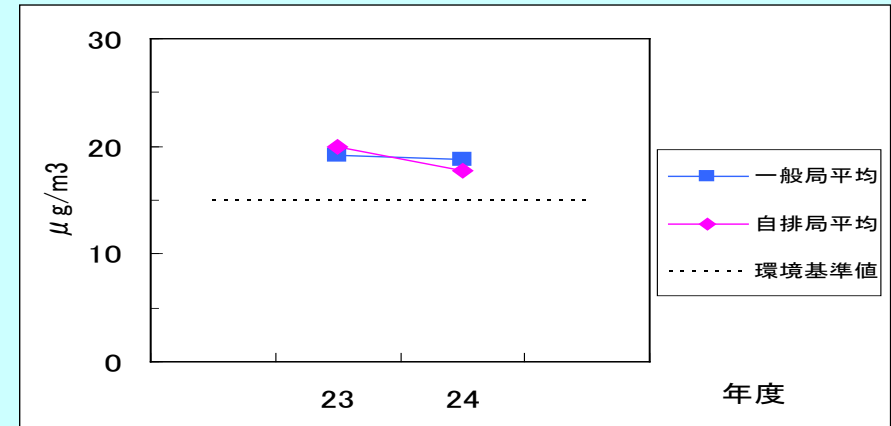
微小粒子状物質(PM2.5)の測定結果

環境保全課

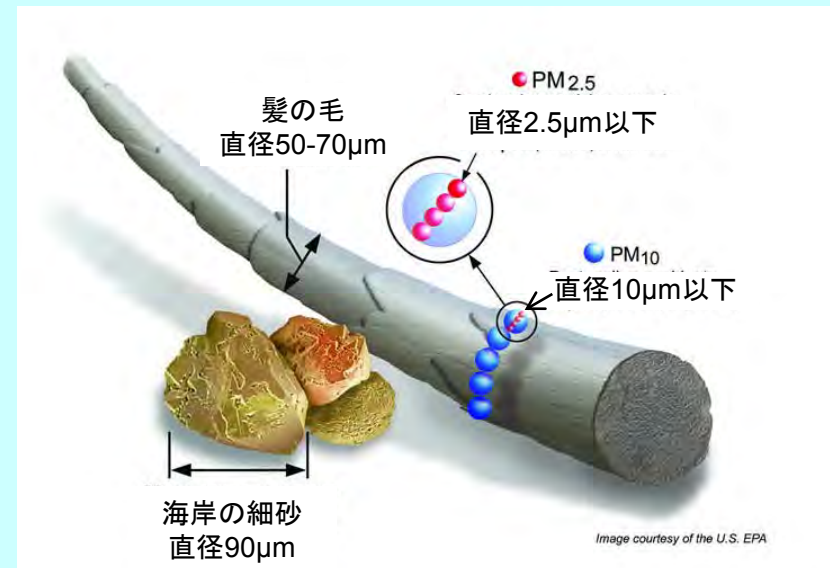


環境基準達成状況

環境基準：年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下かつ
年間日平均値の98%値が
 $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること



年平均値の推移



PMの大きさ(人髪や海岸細砂との比較)

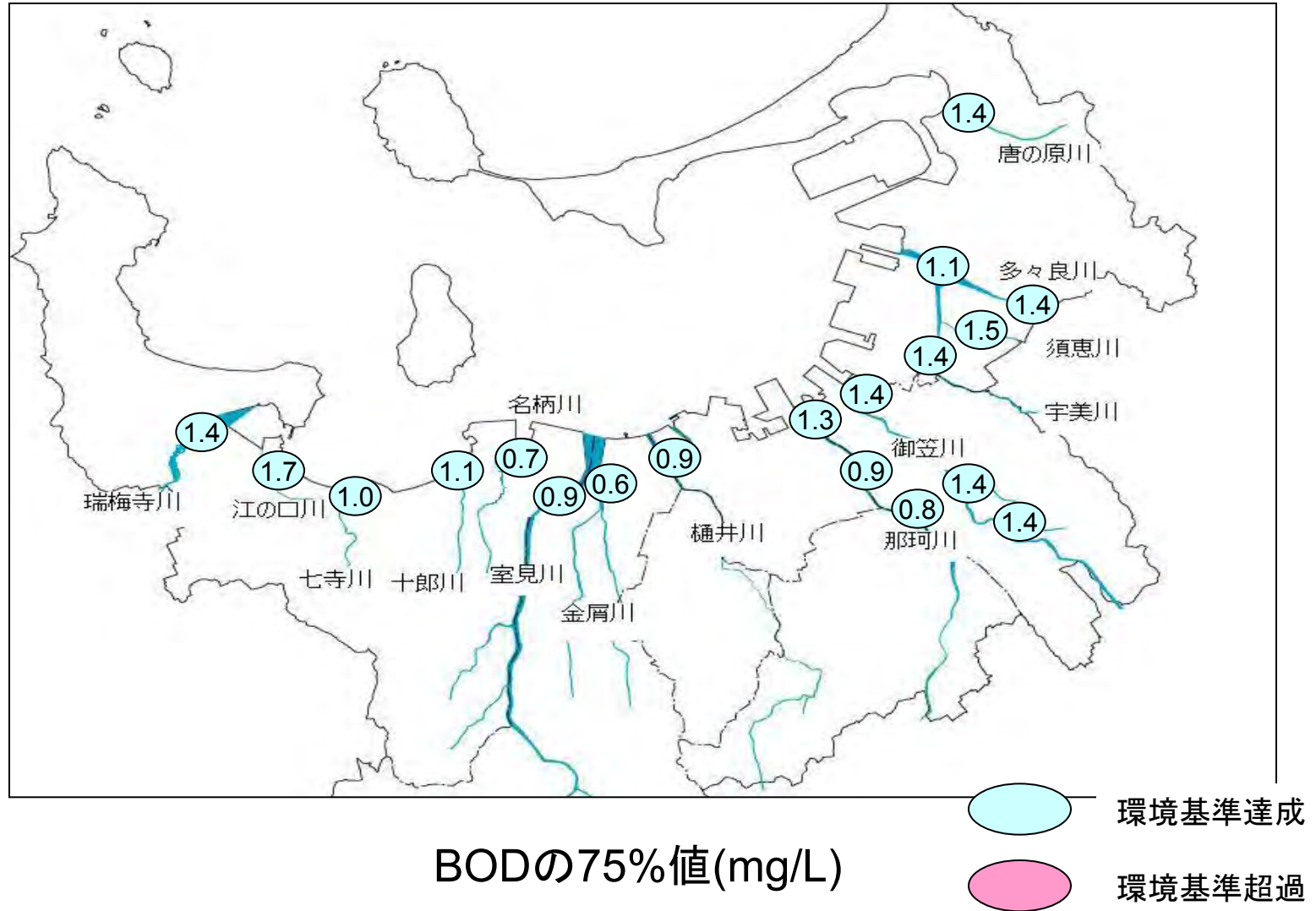
＜主な特徴＞

2段階に設定：呼吸器系疾患などのある人、健康な人

対象	呼吸器系疾患や アレルギー疾患がある人	全ての人
予測	環境基準35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 超過	国の指針70 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 超過
行動の めやす	・ 外出時のマスク着用 ・ 帰宅時の洗眼、うがい ・ 空気の入替えの抑制 ・ 車の運転中は窓を閉鎖	・ 不要不急の外出の抑制 ・ 屋外での長時間の激しい運動の抑制 ・ 換気や窓の開閉の抑制

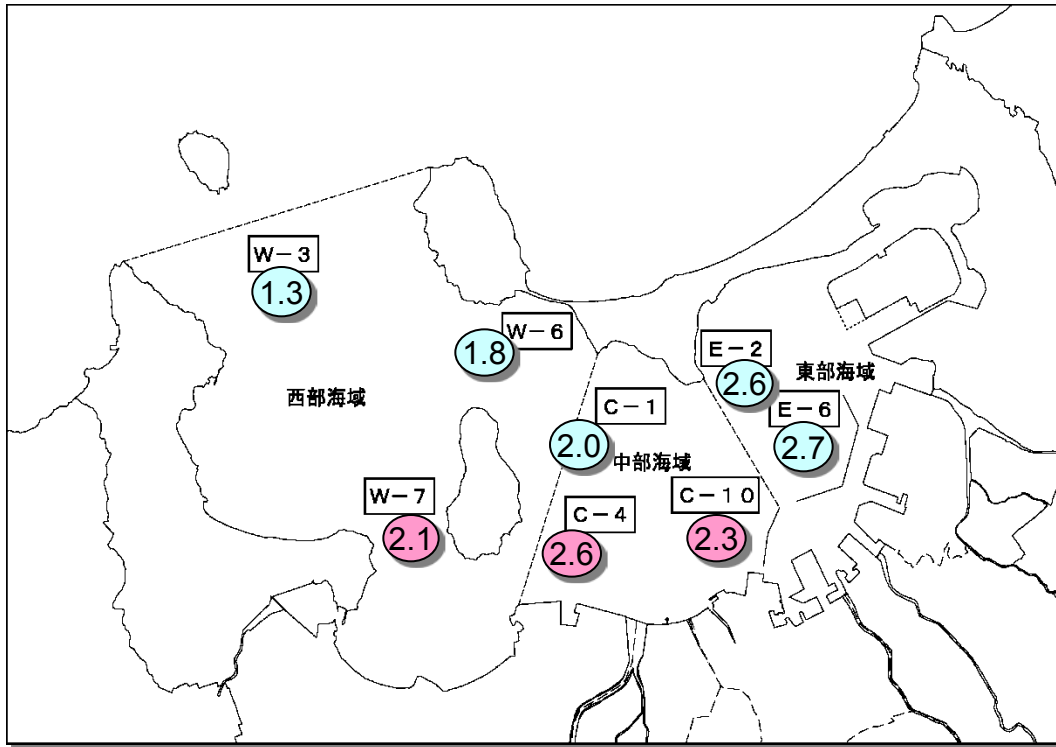
河川水質 (BOD)

環境保全課

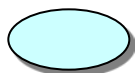


博多湾水質（COD）の状況

環境保全課



CODの75%値 (mg/L)

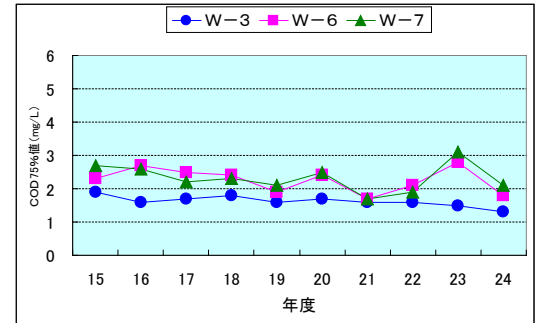


環境基準達成

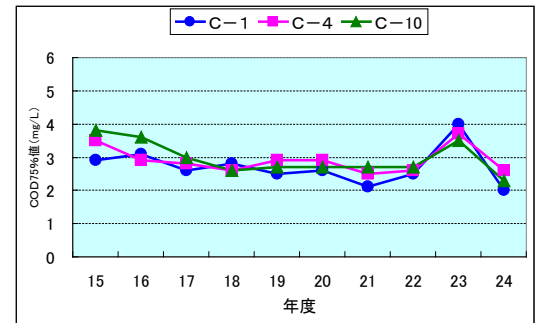


環境基準超過

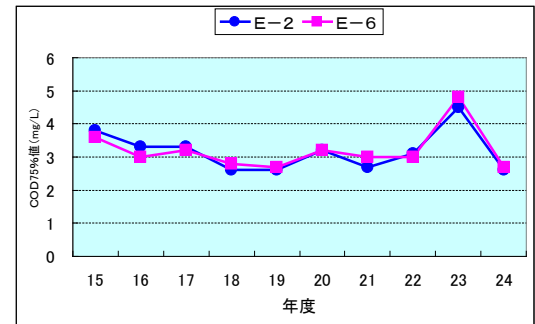
西部海域



中部海域

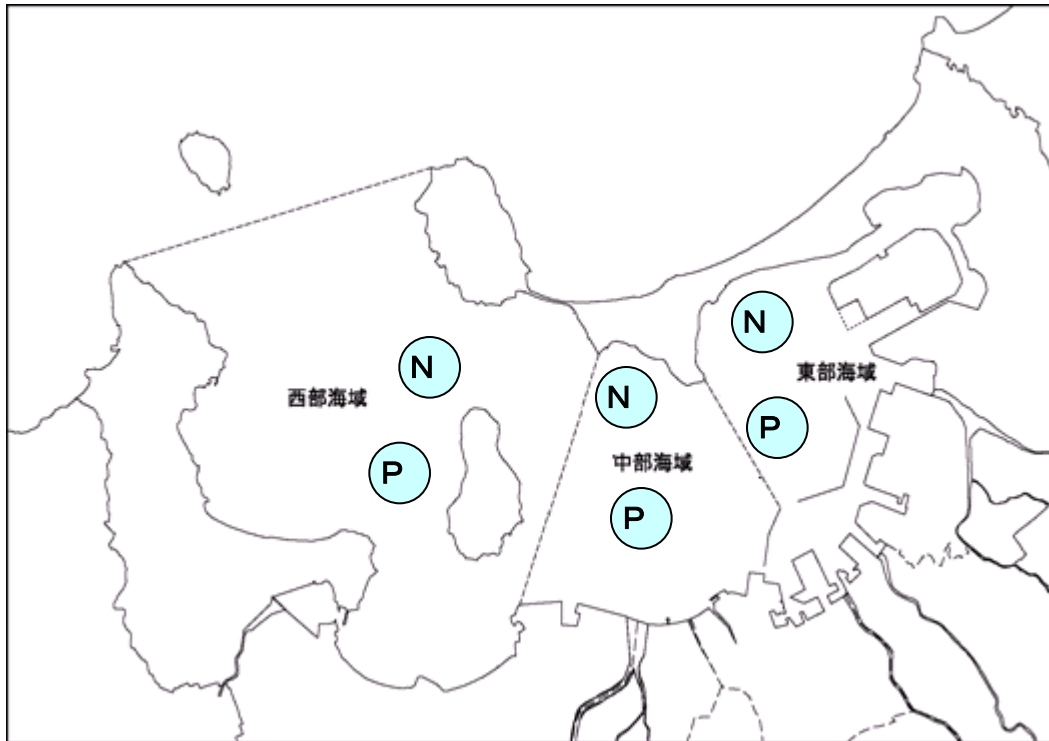


東部海域



博多湾水質（全窒素, 全りん）の状況

環境保全課



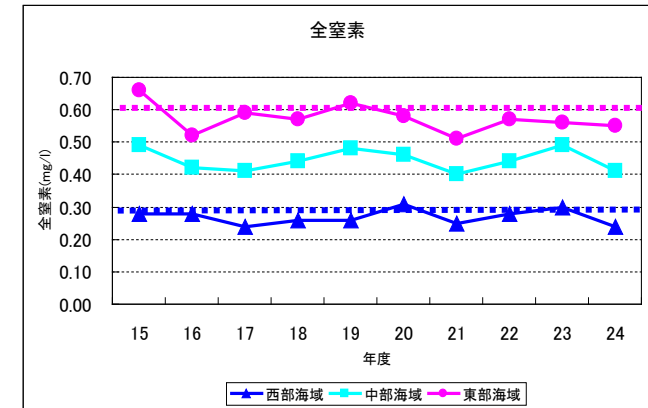
全窒素(N)と全りん(P)の年平均



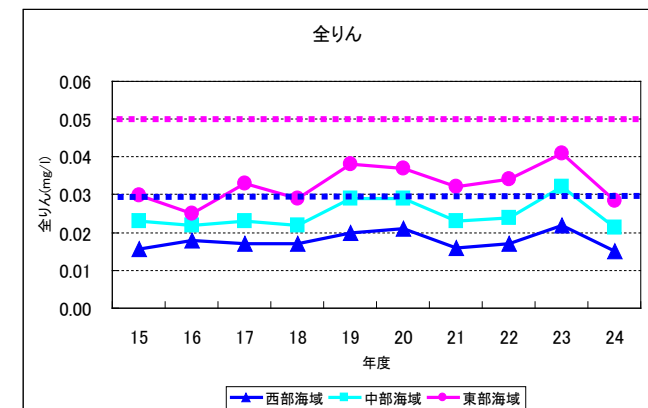
環境基準達成



環境基準超過



全窒素の経年変化



全りんの経年変化

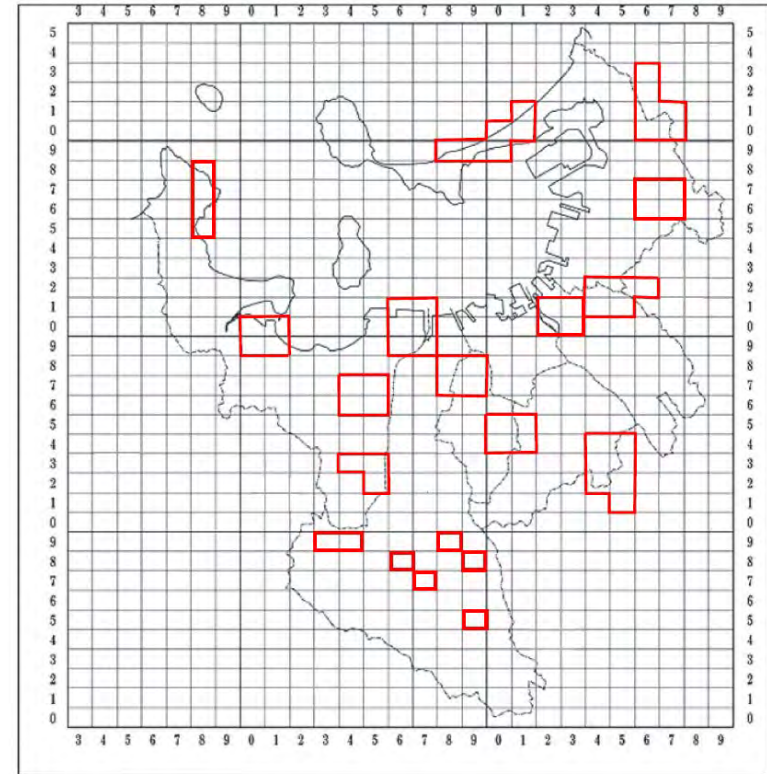
地下水質の状況

環境保全課

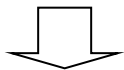
●地下水質調査結果総括表 (平成24年度)

調査区分	調査井戸数	延調査井戸数	基準超過井戸数	項目別基準超過井戸延数内訳		
				重金属等	揮発性有機化合物	その他
概況調査	20	20	1	0	0	1
汚染井戸周辺地区調査	5	5	0	0	0	0
継続監視調査	23	43	11	1	19	0
その他の調査	3	3	0	0	0	0
合計	51	71	12	1	19	1

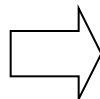
●平成24年度概況調査地点メッシュ



概況調査



汚染井戸判明



汚染井戸周辺地区調査

地区(概況調査)

基準超過物質

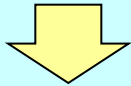
城南区茶山

硝酸・亜硝酸

自動車騒音の状況

環境保全課

自動車騒音の面的評価



平成24年度より市内512区間の沿道両側50mの範囲にある住居等について評価

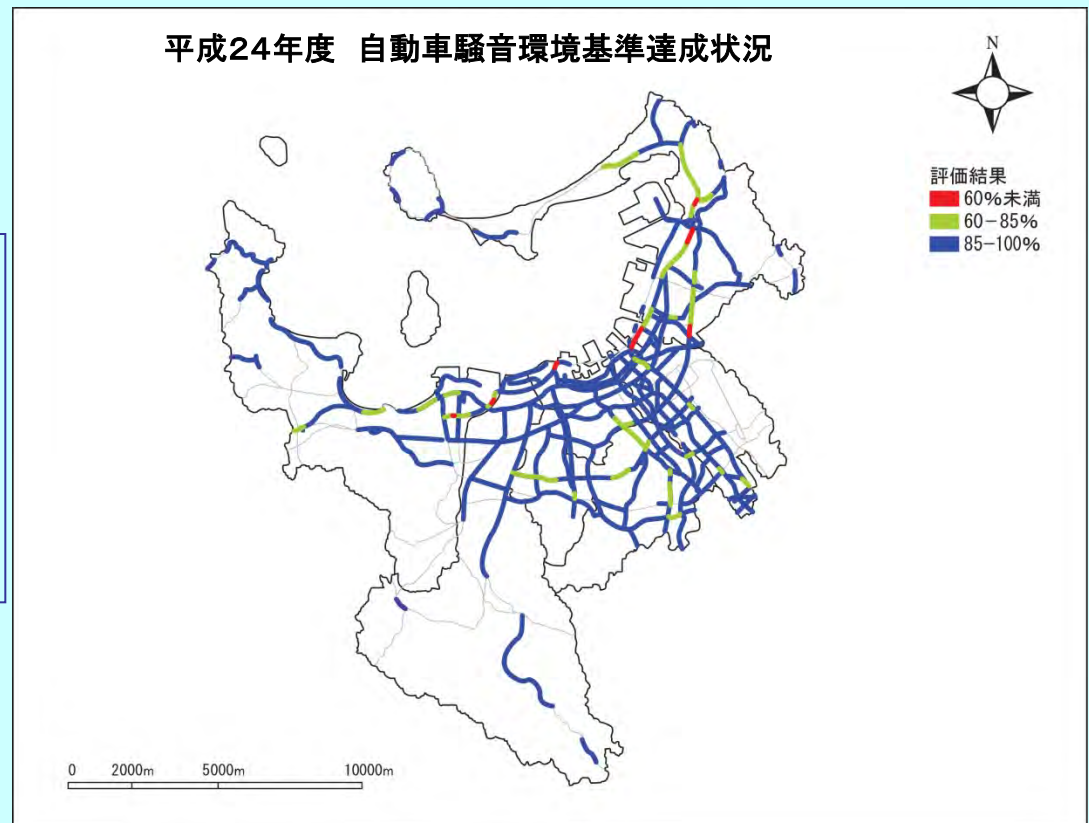
H24年度からの変更点

◆常時監視実施計画見直し 評価区間

170 区間 ⇒ 512 区間

225.2 km ⇒ 391.9 km

区 分	H19	H20	H21	H22	H23	H24
昼夜とも基準値以下	85.8	87.0	89.5	91.2	92.2	95.3
昼のみ基準値以下	8.1	7.5	6.7	5.8	4.9	2.5
夜のみ基準値以下	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.1
昼夜とも基準値超過	6.0	5.4	3.6	2.9	2.9	2.1



化学物質の状況

環境保全課

○ダイオキシン類

大気、水質、地下水、土壌とも、それぞれ環境基準値以下でした。

○有害大気汚染物質

ベンゼンなど21項目について市内4地点で、毎月1回調査を実施し、全調査地点とも環境基準値又は指針値(定めがある項目については)以下でした。

○アスベスト

市内5地域で、一般環境の調査を実施し、総繊維数濃度(アスベスト以外の繊維を含む)は0.070～0.13本/Lの範囲であり、世界保健機構の「環境保健クライテリア53(1986)」の数値(1～10本/L)と比べて低い値でした。

○環境ホルモン

主要河川14地点、博多湾3地点で、ノニルフェノール、4-tert-オクチルフェノール、ビスフェノールA及びop(オルト・パラ)-DDTの調査を実施し、測定結果は全ての地点で魚類に対する予測無影響濃度以下でした。

取組5. 環境に配慮した行動を促すための共通の基盤
の整備

～環境配慮の促進

福岡市環境影響評価条例の改正

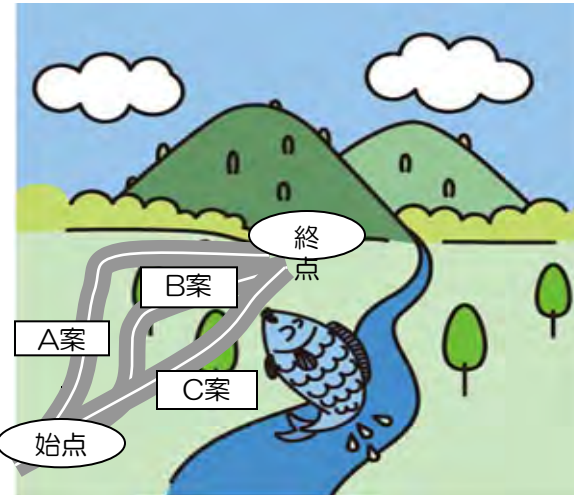
改正のポイント

本市における環境影響評価制度
のあり方について（答申）
（平成24年10月17日）

福岡市環境影響評価条例の改正
平成24年12月27日

改正条例の施行
平成25年4月1日
（配慮書の手続以外）
平成25年10月1日
（配慮書の手続）

○配慮書の手続の新設



- 環境影響評価図書の電子縦覧の義務化
- 公聴会の開催の規定の追加
- 発電所の対象要件の見直し など



取組5. 環境に配慮した行動を促すための共通的基盤
の整備

～その他の環境施策の実施状況

環境教育・学習の推進

総務課



環境フェスティバル



遊び心をもったヒートアイランド対策
(打ち水大作戦) (緑のカーテン)



エコ発する事業



レジ袋削減のための
マイバッグ持参運動



アジアに広がる環境美化活動
(ラブアース・クリーンアップ)

特に若者

特に子ども



わくわくエコ教室



小学生向け副読本



若者の環境活動発表会
(環境啓発U-30事業)



福岡市環境行動賞



特に子どもに向けた取組み

〇わくわくエコ教室

保育園・幼稚園・小学校低学年を対象に、希望のあった学校等に出かけ、出前講座（自然環境保全・循環型社会・地球温暖化）や自然観察会を実施。

24年度実施回数 ・出前講座 59回 ・自然観察会 17回



特に若者に向けた取組み

○環境啓発Uー30(アンダーサーティ)事業

- ・30歳以下の団体による環境活動発表会を開催。
- ・事業の企画運営, 広報も30歳以下の若者で構成される広報運営委員主体で実施。

※環境活動発表会

- ・平成24年12月1日(土)
- ・発表団体 6団体, 来場者約70名



すべての世代に向けた取組み

○福岡市環境行動賞

- ・本市の環境保全へ顕著な貢献があった個人・団体・学校・事業者を表彰
- ・平成24年度 16件表彰(優秀賞以上)

※表彰式開催時期見直しのため、次回は平成26年6月開催予定。



○エコ発する事業

市民団体やNPO法人などが自ら発意・企画し、主体的に行う環境活動の支援やネットワークづくりを促進。(上限額100万円)

- ・対象分野 ①ごみ減量・リサイクル ②環境学習・啓発
③環境保全 ④環境美化 等
- ・平成24年度 22団体助成



すべての世代に向けた取組み

○環境フェスティバルふくおか

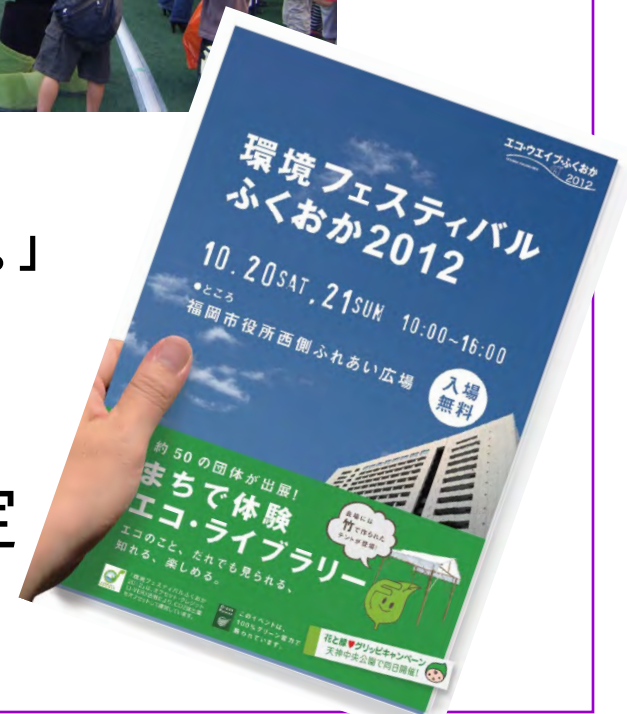
- ・平成24年10月20日・21日
- ・出展団体51団体
- ・来場者数約38,000人

テーマ「まちで体験・エコライブラリー

エコのこと、だれでも見られる、知れる、楽しめる。」

会場：市役所西側ふれあい広場

※今年度は10月19日・20日に開催予定



地域の環境保全活動を担う人材の育成

温暖化対策課

市民を対象とした講座の開催

○環境保全活動リーダー講座

環境を考え感じる心，行動の裏づけとなる知識，人に思いを伝え広げるための技術を有した人材を育成するための環境講座を実施。

8回開催 延べ62名参加

○環境を知る講座

市民や市内通勤・通学者を対象に，全4回の環境講座を実施。

4回開催 延べ77名参加

保健環境学習室「まもるーむ福岡」

体験型の学習施設

「環境・保健衛生に関する情報」や「学習の場」を市民に提供！

＜平成24年度に行った主な事業＞

- ・小学生を対象に実験をしながら楽しく学べる「エコKid'sスクール」、「工作教室」を開催
- ・「シーサイドももち関係施設協議会」のイベント参加(スタンプラリー)など

エコKid'sスクール



体験学習ゾーン



ミラクルラボ



ガイア（映像施設）

アジア太平洋地域を対象とした研修生受入・専門家派遣

○廃棄物埋立技術「福岡方式」を学ぶ研修生の受け入れ

- ・研修生 ベトナム国等 10名
- ・見学者 ベトナム国等 52ヶ国 252名

【平成24年度実績】

○ベトナム国ハイフォン市と覚書を締結[平成25年1月]

- ・「福岡方式」を軸とした技術協力協定の締結に向けた覚書を福岡市環境局・福岡大学・ふくおか環境財団・ハイフォン市建設局・ハイフォン市都市環境公社(URENCO)の5者で締結

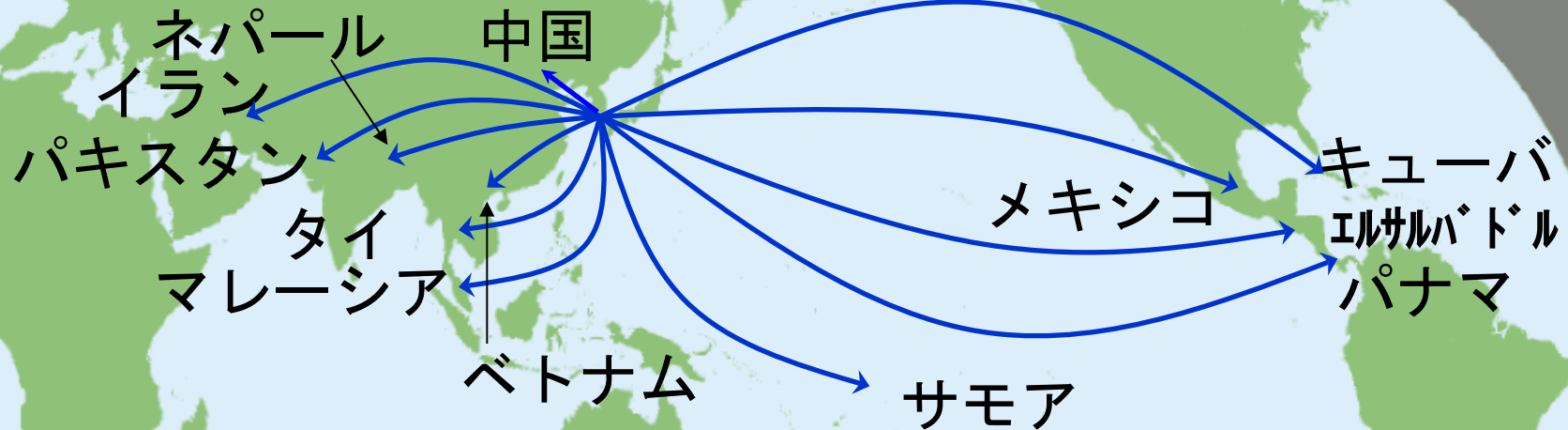


福岡の環境技術の世界へ

政策経営課

施設課

＜「福岡方式」普及に向け、職員派遣した国々＞



2011年7月
国連で
認定



国連の**クリーン開発メカニズム(CDM)**理事会で認定！

既存の埋立地に「福岡方式」を導入



発生を抑制できたメタンガスの量を**カーボンクレジット**
(＝温室効果ガスの排出権)として換算できる。

取組6. 試験・研究の充実

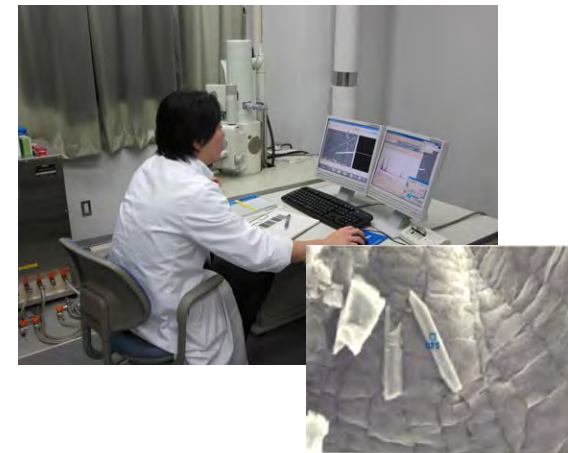
1 有害化学物質，水質，大気

①試験検査

- ダイオキシン類などの有害化学物質検査
- 事業場排水検査 ●悪臭物質等の検査
- 生活衛生検査 等

②調査研究

黄砂や微小粒子状物質(PM2.5)，ゴケグモ類
博多湾の水質保全等に関する各種調査研究を実施



アスベスト検査

2 廃棄物資源化・処理施設

①試験検査

- 廃棄物の資源化に係る試験検査
- ごみ処理施設の適正な維持管理などに係る試験検査

②調査研究

不燃ごみ中の非鉄金属の回収に係る調査研究，
ごみ処理施設の維持管理に係る調査研究などを実施



非鉄金属の回収に係る
調査研究

1 感染症法に基づくウイルス・細菌検査

①試験検査

感染症法に基づく、

- インフルエンザなどのウイルス検査
- 腸管出血性大腸菌などの細菌検査

②調査研究

薬剤耐性菌・食中毒菌などの健康危機管理に関する調査研究を実施



ウイルス検査

2 食品衛生法に基づく細菌・理化学検査

①試験検査

市民の食の安全と安心を確保するため

- 市内を流通している食品の細菌・理化学検査
- 食中毒発生時の細菌・理化学検査

②調査研究

残留農薬の一日摂取量調査



食品検査